

第 3 章 財 務

第3章 財 務

第1 収益的収支

1 医業収益

医業収益は56,702,361千円で、前年度に比べ177,629千円(△0.3%)の減となった。これは、平成27年5月末に六日町・小出病院が閉院したことにより患者数が減少したこと等によるものである。

2 医業費用

医業費用は69,162,414千円で、前年度に比べ524,607千円(△0.8%)の減となった。これは、平成27年5月末に六日町・小出病院が閉院したことにより給与費や資産減耗費等の費用が全般的に減少したことによるものである。

3 純損益

六日町・小出病院の解体に伴う資産除却費を特別損失に計上したことにより、費用が収益を上回ったことから、当年度の純損失は1,020,463千円となり、前年度に比べて1,114,238千円悪化した。

4 要素別費用(看護専門学校及び局本庁の収益費用を除く。)

収益(100円)当たりの要素別費用は、附表44のとおり100円の収益を実現するのに125.3円の原価を要したことになる。

また、患者1人1日当たりの要素別費用は、附表45のとおり、36,009円と前年度に比べ2,299円増加している。

要素別費用

附表44 収益(100円)当たり要素別費用 (単位:円)

年度	区分	給 与 費	医 療 消 耗 材 備 品 費	医 療 消 耗 材 備 品 費	給 食 消 耗 材 備 品 費	給 食 消 耗 材 備 品 費	研 究 研 修 費	経 費	資 産 減 価 耗 却 費	医 業 外 費 用	特 別 損 失	計
23		61.0	26.9	1.0	15.1	7.6	3.6	0.0	115.2			
24		60.6	26.4	1.0	15.4	7.0	3.3	3.7	117.4			
25		62.4	27.6	0.9	16.4	6.9	3.2	0.3	117.7			
26		64.0	27.7	0.9	16.7	7.1	3.5	4.2	124.1			
27		65.3	29.2	0.9	15.7	8.4	3.4	0.0	122.9			
28		64.2	29.8	0.8	15.6	8.2	3.4	3.3	125.3			

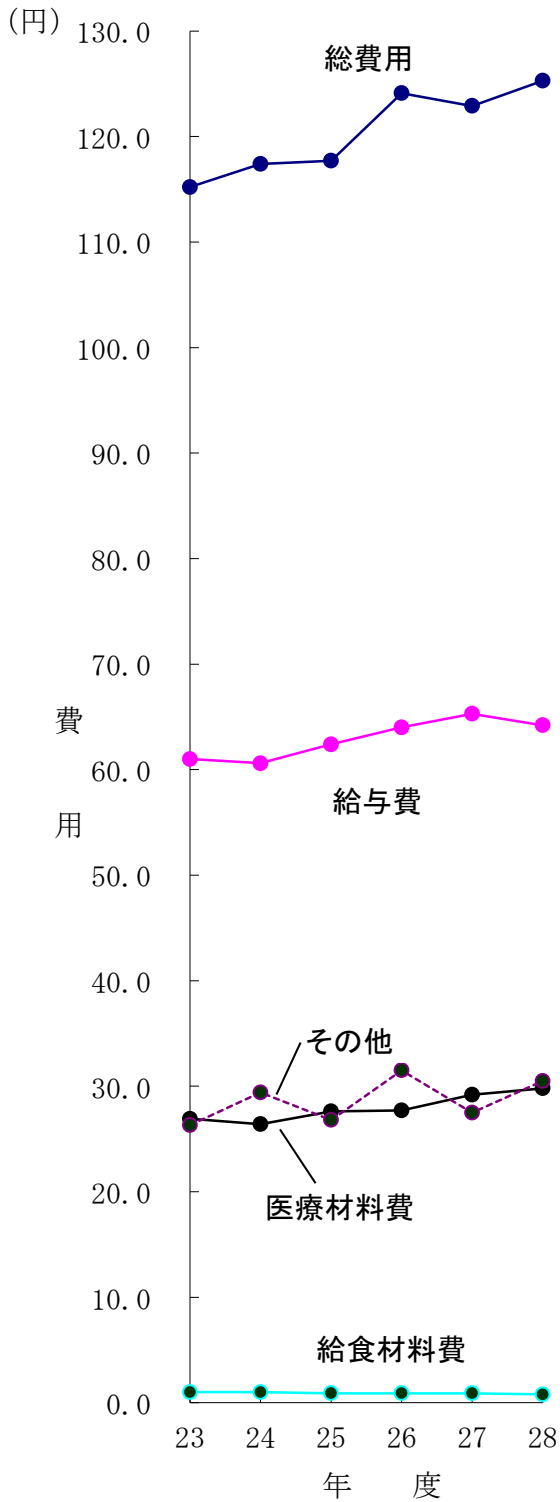
(注) 看護専門学校及び病院局本庁分を除く。

附表45 患者1人1日当たり要素別費用 (単位:円:%)

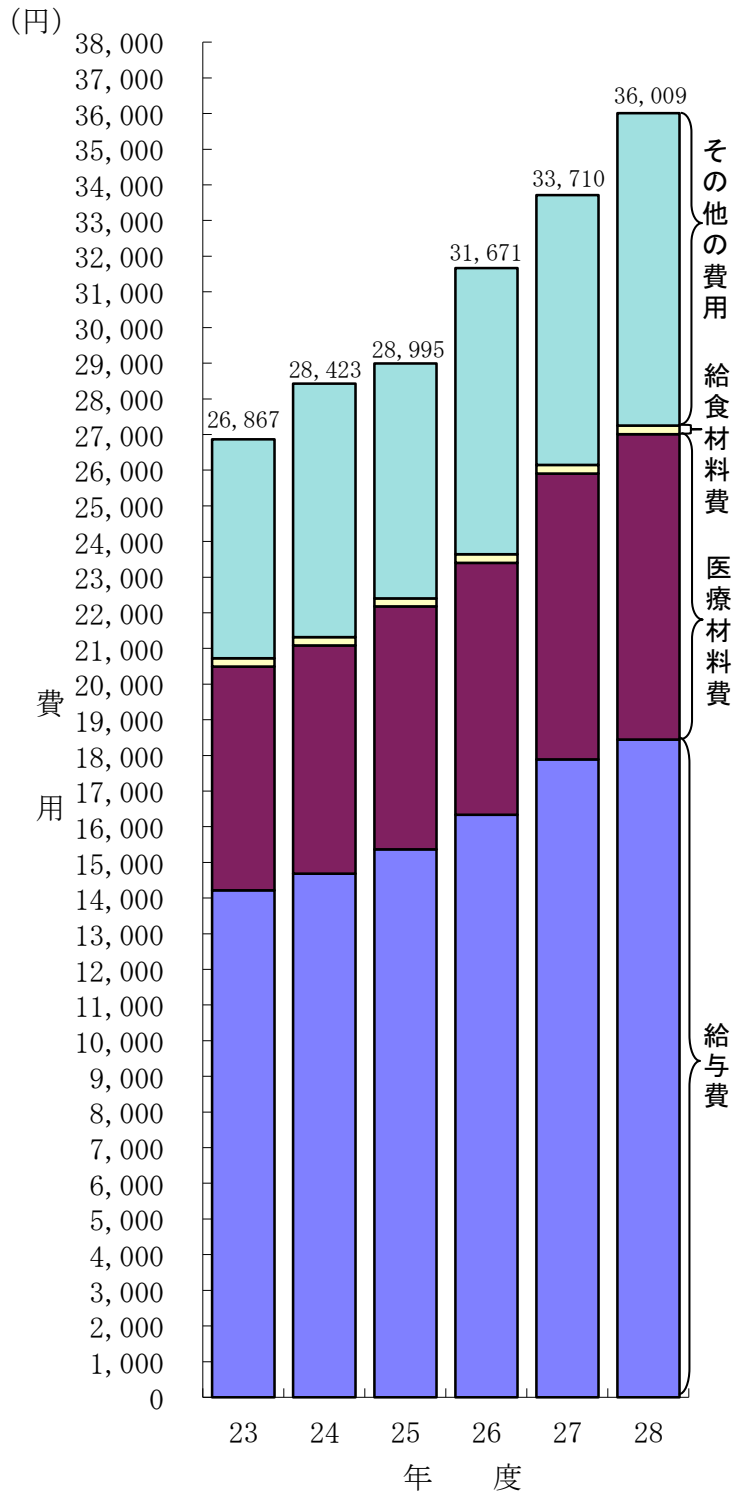
年度	区分	給 与 費	医 療 消 耗 材 備 品 費	医 療 消 耗 材 備 品 費	給 食 消 耗 材 備 品 費	給 食 消 耗 材 備 品 費	研 究 研 修 費	経 費	資 産 減 価 耗 却 費	医 業 外 費 用	特 別 損 失	計	前 増 年 減 度 (Δ 対) 比率
23		14,214	6,276	232	3,524	1,777	836	8	26,867	2.7			
24		14,686	6,395	234	3,719	1,698	807	884	28,423	5.8			
25		15,364	6,811	233	4,042	1,704	777	64	28,995	2.0			
26		16,336	7,067	241	4,262	1,805	885	1,075	31,671	9.2			
27		17,891	8,011	244	4,313	2,310	941	0	33,710	6.4			
28		18,449	8,555	243	4,475	2,365	970	952	36,009	6.8			

(注) 看護専門学校及び病院局本庁分を除く。

図表10 収益(100円) 当たり 要素別費用



図表11 患者1人1日当たり 要素別費用



第2 資本的収支

資本的収入は、前年度に比べ総額1,639,984千円(17.9%)の減となった。
 主なものは、企業債や補助金の減である。

資本的支出は、前年度に比べ総額3,882,185千円(27.3%)の減となった。
 主なものは、建設改良費の減である。

附表46 資本的収支年度別比較

(単位：千円・%)

科 目	24		25		26		27		28		
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	
資本的収入	固定資産売却代	1,787	—		0.0		—	293,986	—	15,106	5.1
	投資回収金	2,355	—	1,977	83.9	3,170	160.3	115,365	3,639.3	1,312,930	1,138.1
	企業債	4,567,200	—	2,183,000	47.8	5,950,000	272.6	5,763,000	96.9	3,955,500	68.6
	出資金		—		—		—		—		—
	他会計借入金		—		—		—		—		—
	寄付金		—		—		—		—		—
	補助金		—	54,062	—	421,261	779.2	2,028,257	481.5	78	0.0
	負担金交付金	36,947	—	570,547	1,544.2	1,471,846	258.0	943,282	64.1	2,249,295	238.5
	その他資本的収入	3,227	—	13,860	429.5	27,376	197.5	30,775	112.4	1,772	5.8
計(A)	4,611,516	—	2,823,446	61.2	7,873,653	278.9	9,174,665	116.5	7,534,681	82.1	
資本的支出	建設改良費	2,522,392	—	2,308,641	91.5	6,570,283	284.6	8,122,907	123.6	4,250,856	52.3
	無形固定資産費	680	—	680	100.0	30	4.4	391	1,303.3	352	90.0
	投資	2,293	—	1,522	66.4	2,892	190.0	1,404	48.5	1,484	105.7
	償還金	7,446,715	—	4,884,118	65.6	5,500,509	112.6	6,094,115	110.8	6,084,769	99.8
	(うち企業債償還金)	7,446,715	—	4,884,715	65.6	5,500,509	112.6	6,094,115	110.8	6,084,769	99.8
	その他資本的支出	128	—		0.0		—	829	—	0	0.0
計(B)	9,972,208	—	7,194,961	72.2	12,073,714	167.8	14,219,646	117.8	10,337,461	72.7	
翌年度繰越財源(C)		—		—		—		—		—	
差引過不足(△)額 (A)-(B)-(C)	5,360,692	—	4,371,515	—	4,200,061	—	5,044,981	—	2,802,780	—	
補てん財源	前年度からの繰越 財源充当額		—		—		—		—		—
	一般会計繰入金 (特別利益)		—		—		—		—		—
	損益勘定 留保資金他	5,360,692	—	4,371,515	—	4,200,061	—	5,044,981	—	2,802,780	—
	計	5,360,692	—	4,371,515	—	4,200,061	—	5,044,981	—	2,802,780	—

第3 資産・負債および資本

平成28年度末における資産総額は70,639,051千円となり、前年度に比較して7,345,820千円(9.4%)減少した。減少の主なものは固定資産4,058,305千円(6.3%)である。

負債は、総額70,276,148千円となり、前年度に比較して6,406,165千円(8.4%)減少した。減少の主なものは流動負債5,538,070千円(27.6%)である。

資本は、総額362,903千円となり、前年度に比較して939,656千円(72.1%)減少した。減少は剰余金939,656千円(3.4%)である。

また、最近5年間の資金運用状況は附表47のとおりである。

附表47 資金運用表

(単位: 円)

区分		年度		24	25	26	27	28	
		源	泉						
長期 資金	源	固定負債の増加				48,861,538,898	437,260,997	304,483,301	
		繰延収益の増加				4,986,429,589	1,764,777,264		
		資本金の増加							
		剰余金の増加	222,687,764				127,661,033		
		繰延勘定の減少	109,244,436	116,305,267	2,046,471,814				
	泉	固定資産の減少	3,671,797,665	2,222,739,194					4,058,305,309
		計 A	4,003,729,865	2,339,044,461	55,894,440,301	2,329,699,294	4,362,788,610		
		使 途	固定資産の増加			2,421,139,386	2,534,132,090		
			繰延勘定の増加						
			固定負債の減少	406,677,280	847,405,397				1,172,578,016
繰延収益の減少									
資本金の減少	2,372,837,733		2,191,712,890	50,903,430,590					
途	剰余金の減少		154,916,765	11,664,706,044			939,655,736		
	計 B	2,779,515,013	3,194,035,052	64,989,276,020	2,534,132,090	2,112,233,752			
純運転資本の源泉増額									
A - B		1,224,214,852	△ 854,990,591	△ 9,094,835,719	△ 204,432,796	2,250,554,858			
短期 資金	源	流動負債の増加	35,257,897		9,572,044,081	3,231,528,458			
		流動資産の減少		1,803,436,827			3,287,515,118		
	計 C	35,257,897	1,803,436,827	9,572,044,081	3,231,528,458	3,287,515,118			
使 途	流動資産の増加	1,259,472,749		477,208,362	3,027,095,662				
	流動負債の減少		948,446,236				5,538,069,976		
計 D		1,259,472,749	948,446,236	477,208,362	3,027,095,662	5,538,069,976			
純運転資本の使途増減									
D - C		1,224,214,852	△ 854,990,591	△ 9,094,835,719	△ 204,432,796	2,250,554,858			

第4 一般会計繰入金

1 収益的収入繰入金

収益的支出に充てるため、一般会計から繰入を受けた額は、附表48のとおり総額 12,977,790千円で、前年度に比べ 269,632千円(前年度比△2.0%)の減となった。これは、六日町・小出病院閉院経費に係る繰入金の皆減や精神神経科不採算経費の繰入金が減少したことが主な理由である。

附表48 一般会計繰入金(収益的収入)一覧表

(単位:千円)

一般会計 支出区分	項 目	24	25	26	27	28
病院 事業 運営 事業 費	救急医療	1,353,875	1,417,196	1,427,082	1,508,667	1,366,321
	集団検診	138,253	133,915	169,827	128,573	147,192
	不採算地区病院	1,012,351	1,221,515	1,364,607	1,558,812	1,892,063
	特殊病院	1,511,034	1,987,840	2,392,947	2,049,951	2,163,201
	がん高度医療不採算	693,209	618,556	752,094	0	0
	高度医療不採算	236,395	178,077	179,222	2,359,131	2,317,893
	起債利息	1,201,388	1,044,178	987,046	925,839	873,420
	その他	5,524,618	3,944,326	4,011,859	4,510,527	3,976,950
	がん研究費	14,578	14,578	14,578	14,578	14,578
	小計	11,685,701	10,560,181	11,299,262	13,056,078	12,751,618
	看護師養成費	204,686	203,179	197,056	178,127	213,590
合 計		11,890,387	10,763,360	11,496,318	13,234,205	12,965,208
防疫 対策費	感染症予防費	15,454	14,366	14,750	13,217	12,582
繰入金総計		11,905,841	10,777,726	11,511,068	13,247,422	12,977,790
病院事業 貸付金	運転資金借入金	0	0	0	0	0
総 合 計		11,905,841	10,777,726	11,511,068	13,247,422	12,977,790

2 資本的収入繰入金

資本的支出に充てるため、一般会計から繰入れを受けた額は、総額2,254,952千円で、前年度に比べ、1,309,929千円(+138.6%)の増となった。

なお、一般会計から建設改良資金(無利子)の借入れは行わなかった。

附表49 一般会計繰入金（資本的収入）一覧表

(単位：千円)

一般会計 支出区分	項 目	23	24	25	26	27	28
病 院 事 業	施設整備費	35,203	24,662	23,272	68,242	71,049	93,767
	起債元金	911,817	12,285	547,275	1,405,456	872,192	2,159,413
	小 計	947,020	36,947	570,547	1,473,698	943,241	2,253,180
助 成 費	がん研究費						
	原子力発電施設等緊急 時安全対策交付金						
	看護師養成費	14,887	3,228	12,878	2,926	1,782	1,772
合 計		961,907	40,175	583,425	1,476,624	945,023	2,254,952
救急医療 対 策 費	災害派遣医療チーム 体制整備費補助金	777					
	NBC・テレ対策受入体制 設備整備費補助金						
繰 入 金 総 計		962,684	40,175	583,425	1,476,624	945,023	2,254,952
病院事業 貸付金	建設改良等 借入金						
総 合 計		962,684	40,175	583,425	1,476,624	945,023	2,254,952

第5 企業債借入及び償還状況

1 企業債借入状況

建設改良費の財源に充てるため、総額3,955,500千円の借り入れを行ったが、その内訳は次のとおりである。

(単位：千円)

区分	事業名	借入先	借入金額
繰前 越年 分度	病院整備事業等（15年償還）	地方公共団体金融機構	40,000
	病院増改築事業等（30年償還）	〃	262,500
	小計		302,500
当 年 度 分	病院整備事業等（10年償還）	地方公共団体金融機構	6,000
	病院整備事業等（15年償還）	〃	701,000
	病院増改築事業等（30年償還）	〃	1,020,000
	医療器械等整備事業	(株) 第四銀行	808,700
	〃	(株) 北越銀行	808,700
	〃	(株) 大光銀行	308,600
	小計		3,653,000
	合計		3,955,500

附表50 企業債借入の年度別推移

(単位：千円)

用途	借入先	24	25	26	27	28
建設 改良 事業	財務省					
	地方公共団体金融機構	509,000	573,000	557,000	3,633,000	2,029,500
	第四銀行	1,704,444	676,200	2,367,000	895,000	808,700
	北越銀行	1,704,444	676,200	2,192,000	895,000	808,700
	大光銀行	649,312	257,600	834,000	340,000	308,600
	合計	4,567,200	2,183,000	5,950,000	5,763,000	3,955,500

附表51 建設改良費の企業債依存度

(単位：千円)

区 分	24	25	26	27	28
建設改良費 A	2,522,392	2,308,641	6,570,283	8,122,907	4,250,856
企業債 B	2,457,000	2,183,000	5,950,000	5,763,000	3,955,500
B/A×100 (%)	97.4	94.6	90.6	70.9	93.1

2 企業債償還状況

借入企業債の償還及び未償還の状況は、附表52のとおりである。

附表52 企業債償還及び未償還残高の年度別推移

(単位：千円)

用 途	借入先	24		25		26		27		28	
		償還高	未償還高	償還高	未償還高	償還高	未償還高	償還高	未償還高	償還高	未償還高
建設改良 事業債	財務省	4,573,565	37,837,410	2,086,201	35,751,209	2,147,592	33,603,617	2,204,224	31,399,393	2,269,695	29,129,698
	金融機構	357,680	7,617,178	409,998	7,780,180	426,123	7,911,057	410,028	11,134,029	414,529	12,749,000
	第四銀行	870,314	4,234,453	767,026	4,143,627	1,051,238	5,459,389	1,419,087	4,935,302	1,500,083	4,243,919
	北越銀行	841,743	4,058,167	821,475	3,912,893	1,188,593	4,916,300	1,485,984	4,325,316	1,376,497	3,757,519
	大光銀行	303,004	1,518,614	295,118	1,481,096	434,694	1,880,402	574,791	1,645,611	523,965	1,430,246
	小 計	6,946,306	55,265,822	4,379,818	53,069,005	5,248,240	53,770,765	6,094,114	53,439,651	6,084,769	51,310,382
公営企業 退職手当 債	第四銀行	210,172	317,760	211,806	105,953	105,953					
	北越銀行	210,172	317,760	211,806	105,953	105,953					
	大光銀行	79,448	201,117	80,065	121,051	40,363					
	小 計	499,792	836,637	503,677	332,957	252,269	0	0	0	0	0
合 計	7,446,098	56,102,459	4,883,495	53,401,962	5,500,509	53,770,765	6,094,114	53,439,651	6,084,769	51,310,382	

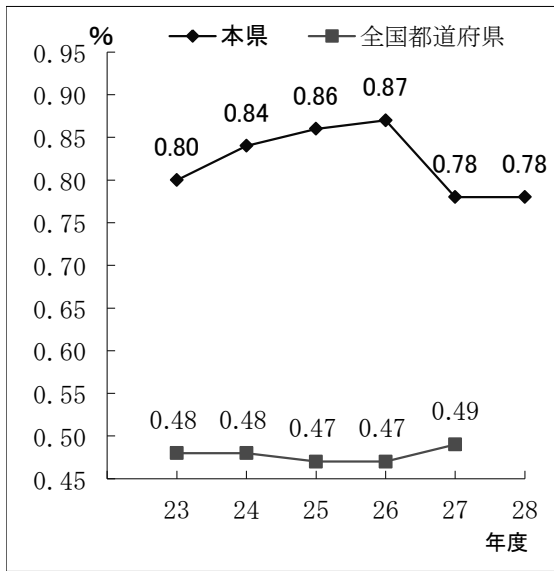
第6 主要財務比率

6年間の主要財務比率は附表53のとおりである。このうち主な比率についてみると、総資本回転率（図表A）は前年度と同数だった。

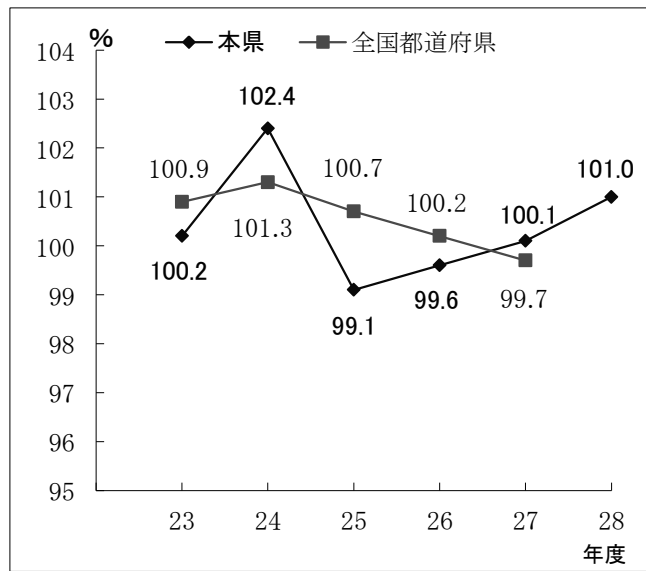
収益、費用の関連比率では、経常収益対経常費用比率（図表B）は0.9ポイント上昇し、医業収益対医業費用比率（図表C）は0.2ポイント上昇した。

企業の支払い能力を示す流動比率（図表D）は前年度に比べ3.0ポイント上昇した。また、現金比率は7.4ポイント下降した。

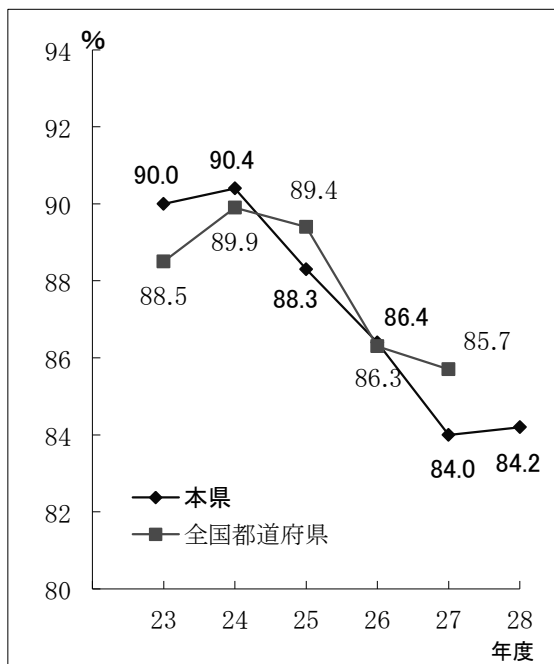
（図表A）総資本回転率の推移



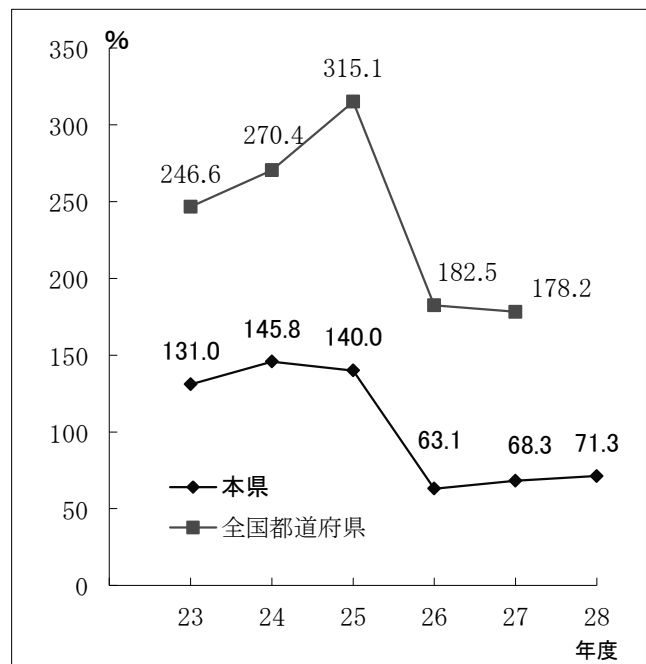
（図表B）経常収益対経常費用比率の推移



（図表C）医業収益対医業費用比率の推移



（図表D）流動比率の推移



附表53 主要財務比率表

区 分	算 式	23	24	25	26	27	28
総資本回転率	$\frac{\text{医 業 収 益}}{1/2(\text{期首} \cdot \text{期末総資本})}$	0.80	0.84	0.86	0.87	0.78	0.78
固定資産回転率	$\frac{\text{医 業 収 益}}{1/2(\text{期首} \cdot \text{期末固定資産})}$	0.96	1.01	1.04	1.04	0.93	0.93
流動資産回転率	$\frac{\text{医 業 収 益}}{1/2(\text{期首} \cdot \text{期末流動資産})}$	6.09	5.69	5.72	6.06	4.83	4.86
貯蔵品回転率	$\frac{\text{貯 蔵 品 払 出 額}}{1/2(\text{期首} \cdot \text{期末貯蔵品})}$	121.0	114.1	91.7	70.8	65.6	63.2
未収金回転率	$\frac{\text{医 業 収 益}}{1/2(\text{期首} \cdot \text{期末未収金})}$	6.3	6.3	6.4	6.3	5.4	5.6
経常収益対 経常費用比率	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100(\%)$	100.2	102.4	99.1	99.6	100.1	101.0
医業収益対 医業費用比率	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100(\%)$	90.0	90.4	88.3	86.4	84.0	84.2
企業債償還額対 減価償却費比率	$\frac{\text{企業債償還額}}{\text{減価償却費}} \times 100(\%)$	133.6	112.5	105.5	130.0	135.9	131.5
固定資産対 長期資本比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100(\%)$	93.2	91.2	92.3	111.2	110.9	107.4
流 動 比 率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100(\%)$	131.0	145.8	140.0	63.1	68.3	71.3
当 座 比 率	$\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100(\%)$	127.6	142.3	135.1	60.9	66.4	65.3
現 金 比 率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100(\%)$	0.5	21.2	0.6	0.2	9.0	1.6

(注1) 本表は、地方公営企業年鑑(総務省編集)数値を用いた。従って、医業収益には地方公営企業法第17条の2第1項第1号の他会計負担金(救急医療、集団検診等の経費)が含まれている。

(注2) 平成26年度は会計基準見直しの最初適用事業年度であることにより一部比率が前年度から大きく変動している。